虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です。

虹の架橋

第２７３号
平成30年５月１日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL 0277－73－1212
Fax 0277－70－1066

今月の題字
小倉くめさん
（愛媛県久万高原町）
不自由な体で季刊誌「秘めだるま」発行や「くめさんの空」というラジオ番組を続けているくめさん。4月14日、72歳の誕生日に題字を書いていただきました。

虹の架橋⇑検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

ながめ黒子の会設立二十五周年記念『ながめDE浪曲』富士路子の世界

六月三日（日）午後二時から、がめ黒子の会設立二十五周年を記念して、日本浪曲協会会長の富士路子さんとゲストに東屋孝太郎さんをお迎えして浪曲イベントを開催いたします。（木戸銭：千円）

曲師の伊丹秀敏さんは八歳から三味線を弾き、今の浪曲界を牽引してきた八十二歳の大御所です。前読みには富士綾那さんも出演。富士路子さんをお招きしての浪曲イベントは今回が三回目。今回の出し物は「慈母観音」と「白餅大名」、ゲスト出演する東家孝太郎さんは「入れ札」を語ります。

日本浪曲協会会長・富士路子

東家孝太郎

富士綾那

ながめ余興場地下の展示室には東家浦太郎、三門博、伊丹秀子など歴代の日本浪曲協会会長や大御所がながめの舞台を踏んだ時のチラシも残されています。浪曲は浪花節とも呼ばれ、三味線を伴奏に七五調の歌う部分（節）と語り（啖呵）を持っている笑いと涙溢れる大衆芸能の代表格です。

ながめ余興場は木造二階建ての芝居小屋で去年は創立八十周年、改修二十周年を迎えました。そして今年は、ながめ黒子の会が結成二十五周年を迎えます。郷土の財産でもある芝居小屋をみんなで守り継いでいきましょう。

小耳にはさんだいい話（文責・靖）《273》

『幸せになる確実な方法』

『ＯＫバジーネパール・パルパの村人になった日本人』という本が四月に出版されました。

ＯＫバジこと垣見一雅さんは二十八年前にヒマラヤ登山で雪崩に遭遇、荷物を運んでくれていた青年が行方不明になってしまいました。「自分だけが助かり、この国に借りができた」と考えた垣見さんは残りの人生をこの国に捧げようと決意、五十四歳で英語教師の職を辞し、亡くなった青年が住んでいた村に二十四年前に移住しました。

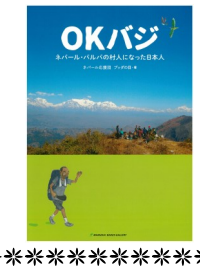
その村で垣見さんが見たものは、衣・食・住・医が満たされない貧困、教育が受けられないがゆえに貧しさから逃れられない現実でした。垣見さんは村人と一緒に生活しながら支援活動を始めました。最初は言葉も解らず、何でもＯＫ、ＯＫと言っていたので「ＯＫバジ（おじいさん）」と呼ばれるようになりました。

現在、日本でＯＫバジを支援する団体は五十以上。支援者も三千人を超えています。「私は日本の支援者とパルパの人々をつなぐパイプです」と謙虚に語るＯＫバジは支援者に対し、写真を添えた手書きの手紙で、村人たちがどんなに喜んでいるかを報告してくれます。その誠実さが日本の支援者の輪を更に広げる大きな要因になっています。

この本の第一章は、「アマコパニかあさんの水」と題した絵物語。毎日、何時間もかけて水を汲むことが日課だった村人と一緒にＯＫバジが水源からパイプで水道を引く様子を桜井ひろ子さんが綴っています。そして、第二章ではＯＫバジが村人と一緒に二百校以上の学校をつくり、飲料用水を百五十基以上整備し、多くの灌漑用水や医療支援を行っていることが記されています。

ＯＫバジは「つらいことだったら長く続けてこられなかったと思う。毎日、小さなことの喜びを与えたり与えられたりしながら二十四年間過ぎたんじゃないかって気がします」と語っています。

「幸せになる最も確実な方法は人々を幸せにすること」というＯＫバジの生き方が伝わってくるこの本はアマゾンやヤフーなどでも購入できます。六月三日、ＯＫバジが桐生に来ます。



世界一小さな足利屋トイレ美術館

今月の写真《273》

高草木幸子さん『桜と花大根』

大間々にお住まいの高草木幸子さんからいつも素敵な写真をいただいています。今月ご紹介する写真は笠懸町の鹿の川沼付近で撮影した「霧の中の桜と花大根」。一面に咲く紫の花大根の中に一つだけ咲く白い花が印象的です。

高草木さんが所属している写真愛好家グループ「ぐるっぺ風景」では今年も恒例の写真展が開催されます。期間は五月三日から五日まで。会場は大間々町五丁目クラブ。会員の方々の素敵な風景写真が一堂に展示されます。お問合せは黒内代表（０９０-４８２８-５６７５）

靖ちゃん日記

四月十八日（水）

大間々街路灯組合のバス旅行で石和温泉に泊まった。河口湖オルゴールの森美術館で、白雪姫の物語を砂を使って描で絵を描いていくサンドアートライブや百年前のオルゴールの音色に感動。今日は雨で富士山は見えなかったが明日は晴れそう。昇仙峡や前々から観たかった藤城清治影絵美術館に行く予定。

今朝は七時半出発。八時にはビールで乾杯。九時からカラオケがはじまった。普段は仕事や家事に忙しい肝っ玉かあちゃん達はみんな歌がうまい。気心の知れた商店街の仲間と歌っては飲み、飲んでは食べ、冗談を言い合って腹を抱えて笑う。何を言っても「セク腹」で許えられる心配はない。

今日の若いガイドさんは、オジサン、オバサンの上品な下ネタに話を合せてくれた。今日はテレビでセクハラのニュースばかりが流れていたが、バスの中はセクハラもパワハラも無縁の世界。ガイドさんの名は「イシハラ」だった。

泣き虫は血筋のあかし母子草

孫の泣き顔を見ていると娘や息子の幼い頃を思い出します。泣くことで母からの愛情を確かめているのかもしれません。

自分自身も泣き虫だったことを思うと血筋はこんなところにも表れているのかと孫の泣き顔がいっそういとおしく思えてきます。

「十億の人に十億の母あれど我が母にまさる母ありなむや」という歌や、「苺という文字の中に母という字を入れた遠い昔の人よ、あなたにも優しいお母さんがいたのでしょうね…」という星野富弘さんの詩画が思い出されます。今年もまた母の日がやってきます。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん

第二七四号は六月一日（金）発行予定です。